

暮らしの中の3R 実践マニュアル

身近なところからごみ減量



はじめに

私たちの住んでいる愛知県では、日常生活に必要な製品や電気、さらには食料などをつくるために、年間1億トンを超える資源が使われています。

これは、本県が日本一の「モノづくりの県」であり、経済活動が活発であることを示していますが、一方で、排出される産業廃棄物やごみの量は年間で約1,700万トンにも及びます。

排出されたごみは、燃やすことでモノとしての形はなくなっても、二酸化炭素の排出量が増えるなど、地球に何らかの悪い影響を及ぼします。

ごみを減らすことは、資源を大切にし、環境への負荷を少なくするための重要な一歩であり、一人ひとりが身近なところから実行していくことが大切です。

このパンフレットは、暮らしの中で実践できるごみの減量の仕方などを具体的に示しています。一人ひとりの取組が集まればそれが大きな力となり、私たちの身近な生活環境だけでなく、地球環境を守ることにもつながります。

さあ、今すぐできることから始めましょう。

環境の日(6月5日)を含む6月は環境月間です。

平成15年度「環境の日」及び「環境月間」統一テーマ
「はじめています。地球にやさしい新生活」

目次

1. 「循環」「3R」ってなに?.....	2
2. 県民向けの目標.....	4
3. 暮らしの中の3R取組事例.....	7
(1)買うとき.....	8
(2)使うとき.....	14
(3)不用になったとき.....	20
4. できることから始めよう「チェック&アクション」.....	25

10月は3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間です。

Reduce : 物を大切に使う、ごみを減らそう
Reuse : 繰り返し使おう
Recycle : 再び資源として利用しよう

「循環」「3R」ってなに？

今までの大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動は、私たちに豊かで快適な生活をもたらしました。しかし、その一方で、行き過ぎた便利さを求め、環境への負荷が高いライフスタイルを定着させたことにより、ごみ問題などの様々な環境問題を引き起こしてきました。

特に、大量に排出されるごみの処分については、ダイオキシン問題やごみ処分場の確保など深刻化しています。また、ごみの処理のために多額の費用がかかっていることも忘れてはなりません。

私たち一人ひとりが、自分が出すごみに責任を持ち、ごみの減量やリサイクルに取り組んでいくことが求められています。



このように、ものを大切に使い、使い終わったものでも、もう一度使えるようにしていく社会を「循環型社会」と言います。ごみは、捨てなければごみではなく「資源」なのです。

私たちは次の3つの「R」で始まる行動を実践して、暮らしの中でごみのダイエットに取り組んでいきましょう。

循環型社会のキーワードは **3つのR**

まず…

Reduce (リデュース 発生抑制)

できるだけ、ごみは作らない。
無駄なものは買わない、もらわないようにする。

例えば

買い物の時は、買い物袋(マイバッグ)を持参し、レジ袋を断りましょう。

次に…

Reuse (リユース 再使用)

まだ使えるものはごみにしないで、別の使い方を考える。

例えば

不用になった服は、リフォームしたり、フリーマーケットに出しましょう。

そして…

Recycle (リサイクル 再利用)

ごみとして捨てる時は、大切な資源として生かせるよう、正しく分けて捨てる。

例えば

PETボトルや空き缶、ビン類などは決められたルールに従い、きちんと分別して出しましょう。